

学校経営理念	児童にとって「学びたい学校」、教職員にとって「働きがいのある学校」、保護者や地域にとって「応援したい学校」づくりを推進する。 <目指す学校像> ○確かな学力を育む学校 ○校風・伝統を大切に、気持ちのよい挨拶が交わされる爽やかな学校 ○清掃が行き届いた清潔で美しい学校 ○保護者・地域の人たちから信頼される学校 <目指す児童像> 【知】伝え合い、学び合う子…進んで学び、深く考え、行動できる 【徳】思いやりのある子…自他のよさを認め、互いに協力し合って豊かに生きていく 【体】健やかな子…忍耐強く、健康な心と体をもつ <目指す教師像> ○心身共に健康で、児童に寄り添い、児童と共に前向きに歩む教師 ○豊かな人間性を持ち、使命感にあふれた教師 ○確かな学力を身に付けさせるため、創意と工夫を凝らした授業を創造できる教師 ○広い視野と展望をもち、保護者や地域の人たちと積極的に関わることができる教師
--------	--

中期経営目標	短期経営目標（評価項目）	自己評価		学校関係者評価		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
I 豊かな心の育成	(1)自己肯定感の育成や人間関係づくりを図る	①i-check（年2回、1年生のみ12月に1回）を実施し、学級集団の状態を的確に把握して、よりよい学級集団づくりを進める。 ○1回目より2回目の数値を改善 ○i-checkの分布図【個人の安全：自己肯定感及び学級満足感2pt以下グループ】(QUTESTEグループに相当)5%以下 ②道徳教育を充実させる。（授業研究・道徳意識調査年2回） ○道徳意識調査で、「自分にはよいところがあると思う」、「頑張りたいことや目標をもっている」、「友達や家族の役に立ちたいと思っている」肯定的評価90%以上（強肯定70%以上） ③人権教育を基盤とした「仲間づくり」に取り組む。（縦割り班活動の充実やことばを大切にしている気持ちの醸成など） ○縦割り班活動の充実（縦割り班活動の回数を昨年度以上実施） ○「ふわふわ言葉・チクチク言葉」の取組を実施し、「ふわふわ言葉を使っている」肯定的評価90%以上（強肯定70%以上）、「ちくちく言葉を使っていない」肯定的評価90%以上（強肯定70%以上） ④学校生活アンケート（いじめ調査）を実施し、指導に生かす。 ○学校生活アンケート「学校生活が楽しい」肯定的評価90%以上（強肯定70%以上）、「いじめはどんなことがあってもいけない」肯定的評価100%	本年度も、i-checkを年2回実施し（1年生は12月に1回）、学級の状況や児童一人ひとりの様子を把握し、より良い学級経営に役立てた。結果として、i-checkの分布図【個人の安全：自己肯定感及び学級満足感2pt以下グループ】に該当する児童は0名であった。一方、不登校傾向の児童は3名おり、注意深く支援を続けている。本年度は新たな不登校児童が2名確認されていて、継続的な支援を続けている。不登校傾向の児童への支援としては、家庭訪問、校内支援会の定期的な開催、スクールカウンセラー（SC）・スクールソーシャルワーカー（SSW）・福祉や医療機関との連携を強化し、改善に向けた取組を進めている。	B	学校生活の中で、互いのよさに目を向けながら活動する場面が見られる。行事や学級活動などを通して、友達と協力して取り組む姿も見られており、児童が安心して学校生活を送ることができる環境づくりが進められていると感じられる。	B	児童の自己肯定感や自己有用感の向上を図るため、日常の教育活動の中で互いのよさに気づき認め合う機会を大切にしている。道徳科や学級活動、学校行事などを通して、友達と関わりながら考えたり協力したりする活動を充実させる。また、i-check等の結果を活用して児童理解を深め、学級経営の改善に生かしていく。不登校傾向の児童については、家庭との連携を図りながら家庭訪問等を継続するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関と連携した支援を進める。児童一人一人が安心して学校生活を送ることができる環境づくりを継続し、互いを大切に人間関係の育成に努めていく。
	(2)読書活動の充実を図る	①朝の読書、読み聞かせ、図書館を利用した授業を実施し、読書好きの児童を育てる。 ○一人あたりの図書貸し出し冊数 月平均：低学年15冊、中学年10冊、高学年8冊以上 ○貸し出し冊数の学年、学級差がないように読書の習慣を身に付けさせる。	1月末時点の一人あたりの図書貸出冊数は、低学年15.4冊、中学年9.0冊、高学年10.1冊であった。中学年がわずかに目標を下回ったが、概ね目標を達成できた。児童の読書習慣は定着しているが、貸出冊数の少ない学級もあり、引き続き支援や声かけが必要である。中学年への働きかけとして、学級文庫の充実や読書週間の工夫など、興味を広げる取組を進める必要がある。読書の楽しさを実感できる機会をさらに増やしていきたい。	B	読書活動については、図書室の活用や読み聞かせなど様々な取組が行われている。児童が本に親しむ機会を大切にしながら、今後も読書活動の充実を図っていくことが望まれる。	B	児童が読書に親しむ機会を広げるため、図書室の活用や読書週間などの取組を継続する。読み聞かせや図書紹介などを通して本への関心を高めるとともに、学級文庫などの活用を工夫しながら読書環境の充実を図る。今後も児童が読書の楽しさを感じる機会を大切に、読書習慣の定着を進めていく。
	(3)基本的な生活習慣や規範意識の定着に努める	①生活リズムの点検に取り組み、生活リズムの改善を意識させる。 ○生活点検の朝起きる時刻（全学年：6時半）全ブロック80%以上朝食を食べている、全学年95%以上 ②あいさつや掃除のできる児童を育てる。 ○時・場・礼アンケート 「チャイム席を守っている」、「無言ですみずみまで掃除できている」、「朝や帰りの挨拶や、返事ができている」肯定的評価90%以上（強肯定70%以上）、「呼びきりせずに名前を呼んでいる」肯定的評価85%以上（強肯定65%以上） ③「くらしのきまり（学校・夏冬休み）」を遵守する児童を育てる。 ○道徳意識調査「学校のきまりを守っている」肯定的評価90%以上（強肯定70%以上）	生活点検における「朝6時半までに起床できた日が4日以上」の児童割合は、65.0%となり、目標値には届かなかった。「朝食を食べている」割合は、91.3%と、目標には届かなかった。生活リズムの確立に向けて、家庭との連携を一層強化する必要がある。生活点検の結果を共有し、具体的な改善策を提示していきたい。	B	登校時刻については、比較的早い時間に登校している児童が多く、生活リズムが整っている様子がうかがえる。今後も家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の定着に向けた取組を継続していくことが大切である。	B	基本的な生活習慣や規範意識の定着を図るため、日常の学校生活の中で継続した指導を行う。挨拶や返事、時間を守ること、掃除に取り組むことなど学校生活の基本となる行動について全校で共通理解を図りながら指導を進める。また、生活点検の取組を通して家庭と情報を共有し、生活リズムの確立に向けた取組を進める。学校のきまりについては守ることだけでなく、その意味や目的について考える機会を大切に、自ら判断して行動できる力の育成を図る。今後も日常の指導を大切にしながら望ましい生活習慣と規範意識の定着に努めていく。
			「チャイム席を守っている」肯定的評価は、97.1%○（強肯定64.5%Δ）。「無言ですみずみまで掃除ができている」は、95.9%○（強肯定73.9%○）。「朝や帰りの挨拶や返事ができている」は、95.1%○（強肯定68.2%Δ）。「呼びきりせずに名前を呼んでいる」は、88.63%Δ（強肯定60.0%）となった。おおむね目標値を達成したものの、「呼びきりせずに名前を呼ぶ」項目では、引き続き意識向上が求められる。	B	挨拶については、来校時などにも気持ちよく挨拶してくれる児童が多く、学校全体として挨拶を大切にしている雰囲気を感じられる。今後も日常の生活の中で挨拶を大切にしている取組を続けてほしい。	A	
		「学校のきまりを守っている」肯定的評価は、96.4%○（強肯定58.1%Δ）となり、肯定的評価は目標を達成したものの、強肯定は届かなかった。児童の規範意識は高く、校内での暴力行為などの問題行動は発生していない。きまりの意味や目的を考えさせる指導を充実させる必要がある。自律的に行動できる力の育成を目指したい。	B	学校生活のきまりや約束を意識しながら生活している様子が見られる。日常の指導を通して、児童が自ら考えて行動できる力を育てていくことが大切である。	B		

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

	中期経営目標	短期経営目標（評価項目）	自己評価		学校関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
Ⅱ 学力の向上	(1)子どもたちが自ら考え表現でき、伝え合い、学び合いのある授業の創造を図る	①児童の考えや表現を大切にしたい伝え合い、学び合いのある授業を行う。（東小学校授業スタンダードの実施） ○学校生活アンケートで、「授業がわかる」、「授業に主体的に取り組んでいる」肯定的評価90%以上（強肯定70%以上）  ②教科等の学習で、ICTを活用した授業や校内研修を充実させる。 ○低・中・高ブロックに別に研究授業を行う。 ○ICT（クラウド、児童用タブレットPC、電子黒板等）活用に関する研修を深め、授業改善につなげる。 ○「タブレットを学習に活用することができている（4年生以上）」肯定的評価90%以上（強肯定70%以上）	児童が自ら考え、表現し、伝え合い、学び合う授業を推進してきた。「授業がわかる」の肯定的評価は、94.7%○（強肯定59.2%△）、「授業に主体的に取り組んでいる」は96.3%○（強肯定58.0%△）であった。振り返り活動の質を高め、達成感を実感させる指導を意識する必要がある。授業改善を継続し、主体的な学びを一層推進していきたい。	B	授業では、自分の考えを発表したり友達意見を聞いたりする場面が見られる。児童同士が関わりながら学びを深めていく授業づくりを今後も大切にしていきたい。	B	児童が主体的に学習に取り組み、自分の考えを表現しながら学び合う授業づくりを進めていく。考えを伝え合う活動や振り返りの場を大切にしながら思考力・判断力・表現力の育成を図る。また、ICT機器の活用については学習内容の理解を深める視点から効果的な活用方法を研究し、授業改善につなげていく。
	(2)子どもたちの基礎学力の定着と、学力の向上を図る	①これまでの全国学力・学習状況調査、標準学力調査の結果を分析し、日々の授業改善に生かす。 ○標準学力調査において、全学年全国平均を上回る。正答率30%以下の児童10%以下 ○全国学力定着状況調査で、算数・国語ともに全国平均を3ポイント以上上回る。正答率30%以下の児童10%以下（6年） ○高知県学力定着状況調査で、算数・国語・理科ともに県平均5ポイント以上上回る。正答率30%以下の児童10%以下（4・5年）  ②基礎基本の確実な定着を図り、個別の支援を行う。 ○授業中の個々の課題時間や放課後を活用し、つまづきのある児童に個別指導を行う。 ○朝学習や放課後学習を充実させる。特に朝のウォーミングアップを地域の方にも手伝っていただき、基礎基本の徹底を行う。  ③特別支援教育に全校体制で取り組む。 ○定期的（月1回以上）に校内支援会を開催する。 ○SCやSSW、特別支援教育巡回アドバイザー等との連携を密に取り、チームで課題解決にあたる。	4月に実施された全国学力・学習状況調査（6年生対象）では、全教科（国語・算数・理科）全国平均を大幅に上回った。正答率30%以下の割合は3%であった。12月の標準学力調査（1・2・3・6年生対象）では、各学年とも全国平均並み、もしくはそれを上回る成績であった。正答率30%以下の割合は1.2%であった。また、12月の高知県学力定着状況調査（4年生：国語・算数、5年生：国語・算数・理科）では、両学年とも全教科で県平均並みの正答率であったが、正答率30%以下の割合は8.5%であった。今後、更なる学力向上に向け、基礎基本を徹底することと、読心力・書く力の育成を重点化する必要がある。正答率30%以下の児童への個別支援を計画的に行い、学力の底上げを図りたい。	B	基礎的な学力の定着に向けて、授業や補充学習など様々な取組が進められている。児童の実態を踏まえながら、今後も継続した取組を進めていくことが大切である。	B	基礎学力の定着と学力向上を図るため、日常の授業において基礎基本を大切にしながら指導を継続する。各種学力調査の結果を分析し、児童の学習状況を把握するとともに指導方法の改善に生かしていく。また、朝や放課後の時間を活用した補充学習等を通して個に応じた指導の充実を図る。特別支援教育については校内支援会を中心に教職員間の情報共有を進めるとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関との連携を図りながら支援体制の充実を図る。組織的な取組を大切にしながら児童一人一人の学びを支えていく。
	(3)家庭学習の習慣化を図る	①家庭と連携し、家庭学習が習慣化されていない児童について、家庭学習の支援を行う。 ○家庭学習を「しない」児童の割合を0%にする。 ○タブレットの持ち帰り（個に応じた学びの保証）	家庭学習を全く行っていない児童は0名であった。宿題忘れは若干見られたものの、家庭学習の習慣は概ね定着している。また、高学年においては、タブレットの持ち帰りが定着しつつある。今後は自主的な家庭学習の内容充実を図るとともに、計画的に取り組む力の育成を目指す必要がある。学習ログの活用などにより、家庭と連携した支援を進めていきたい。	B	家庭学習については、宿題や家庭での学習を通して学習習慣を身に付けることが大切である。学校と家庭で連携しながら継続した取組を進めていくことが望まれる。	B	家庭学習の習慣化を図るため、宿題や家庭学習の内容を工夫し児童が継続して取り組めるよう指導を行う。タブレット端末の持ち帰りなども活用しながら学習機会を広げるとともに、家庭と連携しながら学習習慣の定着を図る。児童が主体的に家庭学習に取り組む力の育成を目指していく。
Ⅲ 学校への信頼	(1)保護者や地域との連携を密にし、信頼される開かれた学校づくりの推進	①保護者や地域に対して学校通信等により学校情報を積極的に発信する。 ○学校通信「三宝」、学年通信を月に1回以上、校長通信「野市東」を月2回程度のペースで発行する。 ○学校Webページを適宜更新する。 ○学校評価書を公開する。	学校通信は月1回、校長通信は月2回のペースで発行できたが、発行の間隔が不均一であった。学校Webページについては更新が滞っている状況である。保護者アンケートの「学校は家庭への連絡や情報提供を積極的に行っていると思うか」の肯定的意見は86.1%。学年通信は月1回発行されているが、学級通信の定期発行が難しい学級もある。情報発信の計画性を高め、定期的かつ安定した発信体制を整える必要がある。Webページの更新体制も見直し、より開かれた学校づくりを推進したい。	B	保護者や地域の方々や学校行事や様々な活動に協力している様子が見られる。地域とともに子どもたちを育てていく取組が大切にされていると感じられる。	B	保護者や地域との連携を大切に、信頼される開かれた学校づくりを進めていく。学校だよりや学年通信、参観日や保護者会などを通して学校の教育活動について理解を深めていただく機会を大切に。また、保護者アンケート等を通して意見を把握し、学校運営や教育活動の改善につなげていく。さらに、地域学校協働活動など地域の方々の協力を得ながら教育活動の充実を図るとともに、児童が地域の中で学び成長できる機会を大切に。保護者や地域と協力しながら児童の健全な成長を支える学校づくりを進めていく。
	(2)児童にとって安全で安心できる学校づくりを行う。	②学期ごとに安全点検を行う。 ○避難訓練（防災・防犯）を年間5回以上行う。	参観日や運動会などの学校行事、学P行事、体験学習は、人数制限なく計画通り実施することができた。学年懇談の内容については、各学年が文書を通じて家庭へ周知した。保護者アンケートの「学校は保護者の意見を聞き、学校運営に反映していると思うか」の肯定的意見は84.6%。保護者の意見をより丁寧に集約し、具体的な改善につなげる仕組みを強化する必要がある。双方向のコミュニケーションを意識した取組を進めたい。	B	学校だよりや学年通信などを通して、学校の様子を伝える取組が行われている。今後も保護者との連携を大切にしながら教育活動を進めていくことが期待される。	B	
	(3)保護者や地域の方々や学校の連携の充実を図る。	③コミュニティ・スクール、地域学校協働本部事業を計画的に推進し、学校・家庭・地域が連携し、地域住民の参画による学校運営を推進する。 ○持続可能な体制づくりを進めながら、ボランティア活動を推進する。	コミュニティ・スクールや地域学校協働本部の取組は、計画通り進めることができた。朝の丸付けや読み聞かせ、授業支援や学校行事のサポートなど、保護者や地域の協力を得ながら実施された。本校の教職員だけでなく、児童も地域の支援に感謝しており、地域とともにある学校づくりを推進している。今後は地域人材の活用場面をさらに広げ、教育活動の充実につなげる必要がある。持続可能な連携体制の構築を目指し、継続的な協働を進めていきたい。	B	保護者や地域の協力を得ながら学校運営が進められている。今後も保護者の協力を大切にしながら、持続可能な連携体制づくりを進めていくことが重要である。	A	

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要